

国分寺市障害者基幹相談支援センター事業  
平成 30 年度 国分寺市相談支援スキルアップ研修・ネットワーク研修Ⅱ  
研修開催報告書

日 時	平成 30 年 10 月 5 日（金） 15 時 00 分～17 時 00 分	場 所	cocobunji プラザリオンホール B
		共 催	国分寺市障害者基幹相談支援センター 国分寺市介護保険ケアマネジャー連絡会

## 1. 背景

引きこもりの長期化などにより、本人と親が高齢化し、支援につながらないまま孤立してしまう 8050 問題が、現在社会問題として取り沙汰されている。福祉の業界においても、「高齢化し孤立する障害者と家族」への支援課題が、8050 問題として浮き彫りになってきている現状がある。国分寺市において、高齢の親に介護保険サービスが入ったことにより、どこにもつながっていない障害者が発見されるケースや、障害者と同居する高齢の親に支援が必要な状況が生じているにも関わらず、必要なサービス導入が難しいケースが顕在化してきている。制度により支援体制が分断されるのではなく、世帯を捉えた包括的支援体制が求められている。

## 2. 目的

- ・日々の実践において共通のテーマとなっている「8050 問題」について、障害分野と介護保険分野がともに学ぶ機会を持つことで、制度を超えた支援ネットワークの構築を図る。
- ・研修を通じて制度を超えた顔の見える関係をつくり、実際の支援に活かせる関係性の土台をつくる。
- ・8050 問題の世帯を支える視点で、互いに連携・協力し合う支援のイメージを持ち、国分寺における地域包括ケアシステムの検討につなげる。

## 3. 講師

講師：白石 弘巳氏（埼玉県済生会鴻巣病院なでしこメンタルクリニック院長，東洋大学名誉教授）

## 4. タイムスケジュール

- 15:00～15:05 開会挨拶（国分寺市障害者基幹相談支援センター センター長 銀川紀子氏）
- 15:05～16:35 講師講演
- 16:35～16:55 質疑応答
- 16:55～17:00 閉会挨拶（国分寺市健康福祉サービス協会 ケアマネジャー 丸太典子氏）

## 5. 参加状況

参加人数：障害 13 名（高齢 72 名，合計 85 名）他，事務局（基幹）5 名参加

## 6. 講演内容

埼玉県済生会鴻巣病院なでしこメンタルクリニック院長で，東洋大学名誉教授でもある精神科医の白石弘巳氏より，「8050 問題～地域包括ケアシステムを考える～」と題し，5 つの項目（①障害をもつ人と家族の事情，②精神の障害と家族支援，③身体・知的・精神障害者と高齢化，④8050 問題・老障介護，⑤家族みんなが幸せに暮らすために）に沿って講演があり，その後，質疑応答を行った。

## 《講演内容の概要》

### ① 障害をもつ人と家族の事情

病気や障害、人災や天災による被災、失敗や挫折等、自分の力が及ばない問題や出来事に突然見舞われ、どん底に突き落とされても、人間には、レジリエンス(乗り越える力)があり、困難の中でも意味や希望を見出すことができる。障害があっても本人の「できること」に目を向け、困難を冷静に客観的かつ肯定的に捉え、今を肯定する見方や、自分ができないことを人に頼める力を持つような働きかけや関わりが、本人の自立と回復を促す上では重要となる。家族が陥りやすい状況には、①病状に対する理解困難、②本人との接し方への戸惑い、③本人との不和・対立、④身体的・精神的疲弊、⑤他の家族の養育や介護の困難、⑥社会的孤立、が挙げられる。家族会に対するアンケート結果によると、1ヵ月以上の医療中断があった家族が7割を占め、病状に対する理解困難に直面していると同時に、精神的な不調に対する服薬や就労等、家族の生活にも多大な影響が出ている現状があり、本人だけでなく家族の回復も視野に入れた支援が求められる。

### ② 精神の障害と家族支援

精神疾患に由来する障害(意識・注意・知覚・感情・意志等の精神機能が自分の思い通りに働かなくなった状態)が初めて法律に規定されたのは障害者基本法による。法整備や制度改正に伴い、障害福祉の対象は拡大、障害に対する考え方も変化してきたが、精神疾患は「見えない障害」と言われ、外見ではその存在は分からず、障害の様子から「こわい人」と見なされ差別や偏見の対象となる傾向がある。「安心してできない」ことが精神障害の特徴の一つで、障害の程度は動揺し、何ができて何ができないのか評価が難しい場合がある。

本人の回復に向けて、家族内では、「指図の悪循環(子どもの引きこもり→家族の不安・焦り・罪悪感→外出刺激→子どもの劣等感・被害者意識)」や「いらいらの悪循環(父親が母親のしつけ方を責める→母親が腹いせに子どもを責める→子どもが情緒不安定になる→父親がいらいらする)」に陥ることがあるが、家族内の問題解決には、「気持ちを話し合える」とことと、コミュニケーションを通じた関係性の構築が不可欠である(関係なくして支援なし)。

### ③ 身体・知的・精神障害者と高齢化

日本は、1970年に高齢化社会(高齢化率7%超)、2016年には超高齢社会(高齢化率26.7%)となった。平均寿命が上昇し、高齢者人口は増加の一途を辿る中、少子化に伴い出生数と死亡数は逆転し、介護・医療費等社会保障費の急増(2025年問題)も懸念されている。一方、障害者の高齢化も進んでおり、障害別年齢構成をみると、身体障害の約4割が75歳以上を占め、精神障害においては、約6割が40歳～64歳であることから、今後、高齢の精神障害者の割合が増加していくことが予想される。これまで生活を支えてきた同居家族(主に親)の高齢化に伴い、自立した生活を送れなくなるケースも増えており、障害者の高齢化を取り巻く問題の一つとして挙げられる。

### ④ 8050問題、老障介護

国の施策・制度が「施設」から「在宅」へとシフトする中、8050問題はより深刻化しており、高齢の親と障害のある子どもが暮らす家庭においては、老親による障害者の介護や、親亡き後の生活が成り立たず入院を余儀なくされるケース等、様々な問題が起きている。近年、家族による痛ましい事件も多発しているが、親の希望する支援を受けない、社会資源や情報、親に対する精神的ケアの不足、親の心理的状況や社会的孤立等の現実が背景にあると考えられる。高齢化の問題は、障害のある本人やその家族にとっても避けて通れない問題であるが、病の軽重に関わらず、本人と家族が自立し人生を歩むことは可能であり、支援者は「親亡き後」から「親あるうちの自立」について真剣に考える必要がある。

## ⑤ 家族みんなが幸せに暮らすために

世帯構成員数の推移をみると、1955年は6人世帯が多数を占めていたが、2010年には1人又は2人世帯が最も多く、家族による支援を期待できない現実がある。8050問題とは、高齢の親と暮らしている障害のある子の問題だけでなく、実際は、適切な支援を受けられない多様なパターンが存在する。本人の自立に向けた準備がその後の支援に大きく関わってくるため、時に専門家は自らの専門性を前面に出し、本人の自分らしさやできることを尊重しながら、支援の必要性を訴え、本人に働きかけ続けることが必要となる。「自立」とは、できることは自ら行い、できないことは人に頼むことができる力を持つことであり、本人の生きる姿勢、希望、コミュニケーションがとれる人間関係、制度と社会資源が自立のために必要な要素となる。

65歳を境にして機械的に介護保険へ移行できないケースも多いことから、介護保険(ケアマネジャー)と障害福祉(相談支援専門員)の双方が「共通の頭」を持ち、チームで相互に連携し合える体制を構築し、高齢と障害をうまくつなげられるサービスのあり方を提案していくことが必要となる。縦割り制度の弊害(支援観や相互理解の隔たり)を解消し、個別的に解決できる制度や仕組みを一緒に作っていただけると良い。

地域包括ケアの最終目標は、誰もが自分らしく暮らせるユニバーサルデザインの考え方を地域で実現することである。今、支援を必要としていない人を気にかけて、孤立しないように見守ることも支援の一つだと捉え、あらゆる人が街の一部で、一人ひとりが尊重されるような街づくりの一翼を担っているという発想のもと、「ゆったりとつながり、負けないで生きていける社会」の実現に向けて共に考えていけると良い。

### 《質疑応答》

Q1. 「家族と本人が支援を受けるために必要なことは良い支援者と出会うことである」との話を受けて、白石先生の考える「良い支援者」の定義とは何か。

⇒専門性や支援の範囲が限定されてしまう縦割り制度の中、本人や家族の希望を叶えるために一歩を踏み出し、自らの守備範囲を超えてチームとして関わる気持ちを持って支援にあたり、最終的に感謝される支援者のこと(そんな支援者になれるように心掛けている)。

Q2. 高齢者支援の中で障害と接する場面が増えてきたが、今後どのような知識を付けていけば良いか。

⇒障害のある方は、要望を前面に出す方が多く、ニード(need)よりも希望(wish)の方が強く出る傾向にあるため、本人との関係を切らずに適切な支援につなげることが難しい一方、高齢者の場合はニード(need)に対応した希望(wish)を聞き、それを実現させる方向に行きやすい。それぞれの支援現場における特徴や違いを学び理解し合うことから始められると良い。

Q3. 「家族がいるうちの自立」について、家族がいながらにしての準備を進める上で、サービスの導入以外で、何か今後の支援につなげるためのヒントがあれば教えてほしい。

⇒家族会でも紹介している「親亡き後の自立プラン」は、自立するために何が必要か、親目線で必要なことや課題を抽出し整理していくもので、親子が話し合いの機会を持ち、本人と一緒にできることから取り組んでいくためのツールとして活用できる。

## 7. まとめ

今年度のケアマネジャー連絡会との共催によるネットワーク研修会は、国分寺市でも顕在化してきている「8050問題」に焦点をあて、8050問題の具体的な事例紹介を踏まえながら、高齢の親と障害のある子が暮らす家庭の現状と、高齢化し孤立する障害者と家族への支援課題を共有し、介護保険(ケアマネジャー)と障害福祉(相談支援専門員)の分野を超えたネットワーク体制の構築に向けて、顔の

見える関係と実際の支援に活かせる関係性の土台づくりを目的に開催した。

研修参加者の中には、実際に 8050 世帯への支援に課題を感じている相談支援専門員とケアマネジャーも多く、課題の実感を持って研修に臨み、その姿勢から実務につながる学びが得られている様子を研修後には感じることができた。また、共通する課題（8050 問題）に対して一緒に同じ講演をきく機会が、支援分野や立場が違う相談支援専門員とケアマネジャーとが、講師の講演にもあった「共通の頭を持つこと」につながっていることは、研修アンケート結果に寄せられた多くの意見からも読み取ることができる。研修を通じて、チームとして相互に連携し合えるための体制構築の土台作りができたと考える。

今回の研修テーマである「地域包括ケアシステム」は、誰もが住みやすいまちづくりにおいて、終わりのない検討テーマであるとも言える。今後も継続して縦割り制度の弊害（支援観や相互理解の隔たり）の解消に取り組み、高齢分野と障害分野をうまくつなげられるサービスのあり方や、世帯の課題を個別的に解決できる仕組みを、分野を超えて一緒に検討して作っていけると良い。次年度も、介護保険分野との共催研修を継続し、制度により支援体制が分断されてしまうことや、支援を必要とする人が孤立してしまうことのないよう、相互理解とネットワークの強化を図りつつ、適切な支援につなげられる支援体制の検討に取り組んでいく必要がある。これまでの研修等を通じて構築されつつあるネットワークを活用し、実際の具体的な支援システムの構築に向けて、意見を深められる場のあり方についても検討しながら、次年度の研修につなげていきたい。

## 8. 参加者アンケート集計

障害分野集計結果	参加者 13 名	アンケート回収 12 名（回収率 92%）
----------	----------	-----------------------

### 1. 本日の研修はいかがでしたか？

とてもよかった	: 8 名 (67%)	普通	: 0 名
よかった	: 4 名 (33%)	あまりよくなかった	: 0 名

理由・ご意見（2以下も同様）

- ・途中までは精神疾患の方たち中心だったが、置き換えて考えることができた。
- ・8050問題は深刻だが、ほかにももっと深刻なことが起きていると感じた。小さなことにひとつでも取り組む。
- ・子離れ、親離れの難しさを日々の支援の中で感じている。ヒントがもらえてありがたかった。
- ・内容もだが、講師の温かいまなざしと姿勢がとても学びになった。
- ・事例やデータを用いながらの説明で、具体的にイメージしやすかった。
- ・親亡き後ではなく、親が活着している間の自立が大切だと学んだ。しかし、そこに踏み込むには、たくさんの時間がかかることや、本人の希望を大切にしながら、こちらのニーズと本人の希望を叶える難しさを感じた。今日から、求められなくても、専門性を大切にしていきたい。

2. 今回のテーマである、『8050問題』から地域包括ケアシステムについて考える研修内容について、理解できましたか？

よくできた : 5名 (42%)      よくできなかった : 1名 (8%)      ※重複回答あり  
できた : 7名 (58%)      まったくできなかった : 0名

- ・できた場面とよくできなかった項目がある
- ・精神障害者の子どもと高齢（認知症）の親の場合、とても閉塞的で孤立している。お金の関係、近隣の問題等、難題があると思う。
- ・8050問題もだが、講演の中にあつたそこからみえてきた8080問題なども色々心配だなと思った。
- ・家族と本人の早い段階での自立と、その自立に向けての支援が重要だと学んだ。
- ・システムや仕組みを作るための基盤となる考え方が学べた。

3. 今後、実際の対応に役立てることが出来ますか？

できる : 12名 (100%)      できそうにない : 0名      どちらでもない : 0名

- ・ヒントがたくさんあつた。ありがとうございました。
- ・感謝される支援者になる。
- ・「家族のあるうちの自立」、今までご家族に伝えていたことだったが、改めてご家族と一緒に考えていかなければ、と思った。
- ・利用者とのかかわりにおいて、学んだ視点を生かしたい。

4. 今後、介護保険とのネットワーク研修で希望する内容（テーマ）などがありましたらご記入ください。

できる : 12名 (100%)      できそうにない : 0名      どちらでもない : 0名

- ・今本当に必要なサービス（時間の問題含め）。
- ・介護保険と福祉サービスのできること。
- ・障害や高齢（年齢）などで段階を分けることのない制度を作るためには何が必要か、またそうなるためにどう制度を作っていけば良いかを考える研修。

5. その他、今回の研修に関するご意見等ご自由にお書きください。

- ・障害のある方は、自分の思いを伝える方ばかりではなく、思いを上手く伝えられない方が多い。
- ・具体的事例をもう少し聞きたい。

**介護保険分野集計結果      参加者 72名      アンケート回収 62名 (回収率 86%)**

1. 本日の研修はいかかでしたか？

とてもよかった : 30名 (48%)      普通 : 0名  
よかった : 29名 (47%)      あまりよくなかつた : 0名

理由・ご意見（2以下も同様）

- ・具体的な例を交えた話がとても分かりやすかった。
- ・関係づくりが一番だと実感した。まずは家族のこれまでの営みを肯定する。最後には笑って帰る。
- ・障害の方との接点が少なく、今後 65 才以上の障害者の方が、介護保険を利用する際に役立つと考える。
- ・事例が多くポイントを掴むことが難しかった。
- ・8050 問題は地域に多くあり、今後も大きな課題と思っている。
- ・現在の深刻さを感じる事ができた。
- ・具体的事例をまじえながら良かった。
- ・精神科の先生のお話が聞けて良かった。
- ・「共通する頭を持って連携する事」が大切、を実感できた。
- ・今後直面するテーマを勉強でき良かったと思う。
- ・無理強いしない支援。
- ・8050 問題というより、相談業務全般における家族との関わり方に役立つ事が多く勉強になった。
- ・色々な事例をだして頂けたことがとても良かった。ありがとうございました。
- ・ケースの中には、難病の方も、家族に引きこもりの方がいる高齢者も障害者もおおり、接し方を考えさせられる時も少なくない。今日の研修が活かされるように参考にしたい。支援のヒントも多くあった。また、これから関わる時間の長さを想像し不安にもなった。
- ・今は精神疾患の利用者や家族のケースも徐々に多くなる中で、自分自身が精神疾患ではないと思っている人が多い。受診につなげる事が困難のため、この度の研修はとても良い機会だった。
- ・業務において、障害がある方やそのご家族と関わる機会が日々ある。医療側の考え方や関わり方を伺い、大変参考になった。
- ・熱心なお話をして頂き感謝している。
- ・地域には障害のある方が意外といるので、そういった方を含めて、地域でのゆるやかな見守りを考えるきっかけにできたと思う。
- ・障害のある人とその家族から、毎月のように相談が入る事例もあり難しいと感じていた。講師の事例にそった説明はとても参考になった。
- ・ケアマネとしてではなく、障害（軽度知的）のある子の母として勉強になった。知的障害の利用者がいるので、もう少し深く聞きたい所もあった。
- ・時間をかけて事例を紹介してほしかった。興味深かったが、進みが早くて分かりにくかった。
- ・障害者の方々へのアプローチに配慮する点等を学べた。
- ・障害のある方への支援の方法について新たな視点をもつ事ができた。先生の支援の考え方は本人や家族を中心（というかそこからしかない）にしているのが伝わってきた。
- ・精神障害は難しく、ケアマネとして入っていけない所が多い。基本の理解はできた。
- ・医師の立場からの支援の視点を知る事ができた。
- ・具体的な対応への提案をいただいた。
- ・8050 はケアマネをやる上で身近な問題だと思う。今日のテーマは良かったのに、前半が長く、一番知りたい後半がかけ足でとても残念だった。
- ・丁寧な説明、口調で十分理解できた。
- ・勉強になった。
- ・長い時間、先生がずっとお話して下さったことに感謝したい。
- ・良い支援者の定義について会場から質問があったことについて、感謝される支援者になることや守備範囲を超えた支援をすること、と先生からの回答があった事に感銘を受けた。

## 2. 今回の障害者基幹相談支援センターとケアマネジャー連絡会との共催研修について

内容は理解できましたか？

よくできた	: 17名 (27%)	よくできなかった	: 0名 (0%)
できた	: 43名 (69%)	まったくできなかった	: 2名 (3%)

- ・家族が今できる事を共に考え、見つけてあげる。小さい事から始めてきちんと評価することも

大事だと思った。

- ・共通の課題でもある「8050 問題」を共に学ぶ事が出来て、今後実際のケースを共に支援する際に大いに役立つと思った。
- ・百人の障害者がいれば、百通りの対応が必要になると思う。
- ・現在担当しているケースの中にも、5～6 例程該当するケースがある。
- ・障害者支援の困難さが身にしみた。
- ・今後障害の方が増えると思われる。連携をとりながら支援していきたい。
- ・実際どのように連携をして地域包括ケアシステムづくりに取り組んでいけるのか、今後も共に研修や勉強を今後も続けていければと思う。
- ・介護保険、障害福祉が縦割りでなく、もっと関わりをもてるようなシステムが大切だと理解した。
- ・ケアマネもこれから障害者に関わることは多くなると思うので、内容も良く理解しやすかった。
- ・資料がポイントを押さえていて分かりやすかった。
- ・遅れて来たためか、共催研修についての話はとくに聞いていない。
- ・よいテーマだった。私の中でホットな情報だった。
- ・介護保険、障害福祉双方の連携の必要性を改めて感じた。今後も共催研修を続けて欲しい。
- ・外部講師の話をも身近に聞ける機会は有難い。いつも途中からグループワークになり、内容が薄いように思う。
- ・これから対応していく時が来ると感じた。

### 3. 今後 実際の対応に役立てることが出来ますか？

できる：50名（81%）      できそうにない：1名（2%）      どちらでもない：11名（18%）

- ・精神疾患の利用者、家族との面談や電話での対応時の心構えとして活用していきたい。
- ・精神の方への対応方法として、良くする方法を考えるのではなく悪くしない方法を探る事の大切さを知れて良かった。
- ・今回の研修によって役立てることは難しいように思う。支援についてもっと勉強していきたい。
- ・精神疾患の問題は医療モデルだけでは解決しないと思う。地域の理解、社会資源の整備等が不可欠。
- ・できるようにしたい。
- ・難しいと思う。
- ・障害の子を持つ親が周囲に隠していた例があり、親が病気になり発覚した。コミュニケーションの大切さと粘り強く関わる事の大切さが理解できた。
- ・「関係なくして支援なし」「家族から相談への対応の原則」が大変参考になった。
- ・実際担当している高齢夫婦の子が引きこもり、担当している夫婦の原点には子の事ばかりがある。子にも医療サービスが入っているが、なぜか介護度をもっているが介護保険は拒否。介護認定をうけているために適切な相談機関につながらない現実。自分の守備範囲を超えての支援には気持ちはあるが線引きが難しい。そんな思いを持ったので、どちらでもないを選択した。
- ・自分の知らない事に触れる事が出来た。
- ・支援を求めてこない人について、本人の希望を確かめながら粘り強く関わる事の大切さを今回学んだ。現場でも活かしたい。
- ・積極的な働きかけ等、支援は「80」にも「50」にもやる必要があると考える。
- ・接する前に考える内容が多く材料が増えそう。
- ・市内の状況が知りたい。
- ・利用者だけでなく、家族に精神症状がみられる場合があり、そういった際の対応に役立てたい。
- ・役立てたいと思う。私自身の障害についての理解も深める必要がある。
- ・難しいと思う。
- ・ヒントになったと思う。でもケアマネは障害者サービスの前ではとても孤立していると感じており、事例のような「直面化」は難しい。みんなもっと助けて下さい！

- ・障害施策と介護保険制度の問題点について、いつも自分が感じている事に先生も同様に感じている事がわかった。今後制度が変わっていく事を期待したい。
- ・難しい問題だと思っていると同時に、これからつきつけられる問題としてとらえた。
- ・様々なケースがあると思うので活かしていきたいと思う。
- ・今回の講義の内容的に身近に考えられるケース等が多く、切実な問題であると実感した。先生が講義の中でお話されていた「直面化」の考え方、障害高齢者のニーズ、ウイッシュが違う事を学び、更に勉強してみたいと思った。
- ・できるといいなと思う。
- ・ケアマネになって半年が経った。目の前の事でいっぱいだが、役立てていきたいと思う。

#### 4 . その他 今回の研修に関するご意見等ご自由にお書きください。

- ・今現に担当している家族内の事にあてはまるため、今日の講義で学んだ事を活かしていきたい。
- ・淡々と話されていたが、講師が最後に話している内容がとても身に沁みた思いがした。
- ・高齢者に対する支援と障害者の支援の違いに想いをはせられ、勉強になった。
- ・ありがとうございました。
- ・体験からというのも多いのだろうが、先生は質問に対する返答も分かりやすく、すばらしい。
- ・8050 のケースを担当している。今後の支援の方向性の参考になった。
- ・子の自立はいつも思っているが、16, 17 才の子に色々言うのは難しい。ゆっくりでも周りの方々の支援を受け、親が死んでも頑張って生きていける地域社会を願っている。
- ・高齢と障害のグループワークが次回あれば良いなと思った。
- ・良い支援者に当たれば良いと思うが、精神のケアにはまだまだ壁が高く連携しづらい。
- ・何か勇気づけられた。ありがとうございました。
- ・良い支援者観（質疑の中の）には励まされた。
- ・もう少し肝心の後半部分が詳しく聞きたかった。
- ・以前長い間引きこもっていた子を持つ母親を担当した事があった。このままではよくないと、どうせ変わらないという本人に時間をかけて説得してやっと担当機関につなげ相談に至ったが、「本人にその気がないと何もできない」と言われ「やっぱり」となってしまったケースがあった。現実には厳しいが、そんな経験も活かして次はその支援者に訴えて何か変えていく等あきらめずにやっていきたいと思った。
- ・障害分野との連携としては少し弱かった部分もあるが、地域包括システムの枠組みの講義であったので、障害－高齢と分けることではなくなっている。喫緊の課題なのでとても参考になった。